

第三者評価結果入力シート（児童自立支援施設）

種別	児童自立支援施設
----	----------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー

②評価調査者研修修了番号

SK18023
SK15017
01-013

③施設名等

名称：	山形県立朝日学園
施設長氏名：	草薙 広志
定員：	35（暫定12）名
所在地（都道府県）：	山形県
所在地（市町村以下）：	大江町大字藤田837-4
T E L：	0234-62-3044
U R L：	http://www.pref.yamagata.jp/ou/kosodatesuishin/092003/

【施設の概要】

開設年月日	1910/10/11
経営法人・設置主体（法人名等）：	山形県
職員数 常勤職員：	11名
職員数 非常勤職員：	18名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（イ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（ウ）	調理師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	寮舎 3棟
施設設備の概要（イ）設備等：	本館（普通教室 3室、特別教室 2室、事務室、保健室）
施設設備の概要（ウ）：	体育館、実習棟
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>【理念】 児童の権利を尊重し、個性を重んじ、対話を大切にすることで、職員との信頼関係をつくり、情緒の安定を図る。児童が将来自立して地域社会で生きていけるように、自ら判断し、決定する力を育てるため、生活のあらゆる場面を通じた支援を行う。</p> <p>【基本方針】 ①子どもの基本的な権利を尊重し、自立支援計画をもとに、児童集団における相互の影響力を生かした指導と個別支援の充実。 ②処遇技術向上と個別支援に対応できる専門性を養うための研修等の充実。 ③地域行事やボランティア活動への積極的な参加など地域とのふれあい活動の充実。 ④児童相談所や前籍校との連携と定期的な連絡会議の開催。 ⑤帰省や職員の家庭訪問、保護者の行事参加、退園に向けた家庭復帰訓練の充実、退園生のアフターケアなど家庭支援の充実。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>①理念や基本方針に基づいて、子どもの権利を尊重し、個性を重んじ対話を大切にして子どもと職員との信頼関係づくりを重視した取組。 ②情緒不安定や精神的な障害など様々な症状の子どもが多くなる傾向にあるため、職員の処遇技術の向上や個別支援の対応などで専門性を高めるための研修への取組。 ③子どもが将来に向けて社会生活ができるように、自己決定や判断する際に的確に捉えられるように日常生活を通して力をつける助言や指導・支援の取組。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2020/8/1	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2021/1/20	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成 29年度	

⑦総評

◇評価の高い点

1. 子どもの権利擁護や最善の利益に向けた支援について

施設長（園長）は、年度当初に子どもの権利や運営マニュアルを含めた講話を行っています。運営委員会での確認や職員研修を通して周知を図り、職員共通の認識をもって支援にあたっています。小学生には権利ノートを通じて説明し、中学生以上には大人用の資料を用いて分かりやすく丁寧な説明を行って理解できるように努めています。子どもたちに今の生活の居場所を意識できる・共感性を強く持てるような配慮や意識をしながら支援をしています。また違和感を汲み取る・頑張ったことなどを褒めることや施設での生活をするうえで護られていることを伝えながら子どもたちとの信頼関係づくりに取り組んでいます。入所時に会話がうまくできなかった子どもが今では何でも話せるようになったり、野菜の植え付けから収穫までの共同作業から皆で汗を掻いた喜びなどを通して、共生の大切さや地域社会で生活するための学びから心の成長に繋がっています。子どもたちは短期間の共同生活の中で、護られていることを知り、生活上のルールを守ることの大切さを理解できるようになって、進路・進学や社会に向けた自信にもなっています。

2. 子どもの人権に配慮したきめ細やかな支援について

子どもの人権を尊重するために職員研修を重ねて、自立に向け子どもが人に対する接し方や尊重する意識を持てるように支援を行っています。運営マニュアルに基づいて、行動上の問題となる暴力・いじめ・差別・プライバシーの保護などに配慮をし、子ども一人ひとりに担当職員が寄り添いながら支援を行っています。日常の会話や相談などでも言葉遣いに気を付け、健やかに学園生活を送れるように努め、また心理的な面についても一人ひとりに親身な対応をすることで心を開くようになってきています。子どもの相性を考慮した部屋割や細やかな支援に心がけた結果、笑顔や明るい表情が出て会話も多くなっています。職員や学校の先生から「頑張ったね」と褒められることで自信や成長に繋がり、落ち着きや素直さも出てきて子ども自身が人に対する配慮ができるようになり、心の安定と態度にも現れ成長しています。

◇改善が求められる点

1. 心理的ケアについて

最近の子どもは様々な環境や境遇を要因とした、心の病を持つ子どもが多くなっています。施設でも精神面で不安定な子どもがいることから、児童相談所の児童心理司に来てもらい心理面接を行っているのが現状です。児童相談所の児童心理司や精神科の嘱託医と施設職員との連携や共同の支援の強化を図ると共に、日常的に心理的ケアのできる心理療法担当職員の配置に期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

・心理的ケアについて、心理療法担当職員の配置を含め、より一層の向上に努めたいと考えています。

⑨第三者評価結果（別紙）

自己評価結果表【タイプA】（児童自立支援施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b
【コメント】 理念や基本方針は年度当初に説明と確認を行い、また会議の場においても必要に応じて職員へ周知を図っている。子どもや保護者等には入所時に資料を用いて説明を行って理解を得ている。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b
【コメント】 子どもの情報は主に児童相談所から得ているが、東北・北海道の福祉施設とも情報交換をしながら動向の把握に努め、福祉計画の策定をしている。措置で入所する子どもは、短期入所が殆どであることや心理的な課題を持つ子どもが多くなってきているため、子どものニーズに合わせた支援方法や分析を行っている。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 <input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	b
【コメント】 人材不足を補うためハローワークや福祉人材センターへ積極的に募集を図っているが、希望者が少なく厳しい状態になっている。施設運営や課題について、園長・副園長・寮長・大学の先生が入り課題解決や改善策を検討して職員へも周知をしている。	

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	<p>4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	b
【コメント】		
中・長期計画は施設側は策定していないが、施設建物の老朽化に伴い改善が望まれており、県で整備基本計画を策定している。寮は2022年度に、本館は2023年度に新築完成し使用できるように進めている。		
②	<p>5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	b
【コメント】		
県の整備基本計画に基づき、今年度から施設の基本設計に入っており新築に向けた準備を進めている。施設と分校が連携調整を行って、子どもの短期入所の想定を含めた単年度の事業計画を策定している。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	<p>6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	b
【コメント】		
各担当者が中心になり事業計画の評価・分析をして、また分校とも連携を図りながら見直しを行って事業計画策定をしている。研修会や会議の場で職員へ周知し、理解を得て計画に基づいて事業を実施している。		

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

入所時に子どもと保護者に、資料を配布し事業計画を説明している。小学校の低学年生には子ども向けの資料で分かりやすく説明をしている。また保護者には行事等への参加時にも、行事表などを利用し周知と理解を図っている。

4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

寮担当者会議を毎週行い、1週間の振り返りを重ねて次回に繋げ、運営委員会にも上げている。また分校の教頭・教務主任、園長・副園長・家庭支援相談員・寮長による運営委員会を毎週開催している。自立支援会議には分校の教頭・担任教師・保護者・前籍学校教師・児童相談所が入り、チェック基準による判断やPDCA(計画・実行・評価・見直し)サイクルに基づく支援の質の向上に向け協議を年4回開催している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

職員の自己評価や第三者評価結果から課題を挙げて、職員参画のもとで改善について会議を開き、見直しを含め策定された改善計画を自立支援計画や施設整備等に反映している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	b
【コメント】 施設長は年度当初に職員へ基本理念・支援方針を説明すると共に、毎週開催される運営委員会の中でも自らの役割と責任を表明している。有事の際に園長不在時の権限は副園長2名に委譲する事を明確化している。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	b
【コメント】 施設長は新しい情報や法改正について、日課である朝会において周知を図り法令遵守等を徹底している。全国研修での資料や情報等は伝達事項として回覧を通して共通の理解を図っている。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。 <small>(5種別共通)</small> <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	b
【コメント】 施設長は週に1回開催の運営委員会や3ヶ月ごとに実施される自立支援会議に参加し、日々の養育支援について職員からの相談や対応に指導力を発揮している。		

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	b
【コメント】 子どもの支援の充実化を図るためにも指導職員の人材不足を施設の課題として掲げている。県内の児童養護施設との情報交換やハローワークに募集依頼を行い人材の確保に努めている。		

2 福祉人材の確保・育成

	(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。 <input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。 <input type="checkbox"/> 支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。 <input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。 (5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	b
【コメント】 職員配置の人事は県で実施しているが、家庭支援相談員は寮長2名が兼務しており心理療法士としての有資格の配置がないため、児童相談所の心理司に依頼し心理療法をしてもらっている。さらなる県への働きかけに期待したい。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。 <input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。 <input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。 <input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。 <input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	b
【コメント】 期待する職員像について明確にされていないが県の人事基準に基づき、正職員は人事評価として年に1回の自己評価を実施し、施設長と面談を行い、人事にも反映されている。職員の将来の目標・指針となる職員像を職員参画のもとで「期待する職員像」を掲げることに期待したい。		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	

【コメント】

夏休みは帰省する子どもがいることから、職員相互の協力と調整で有給休暇を取得している。シフト変更は柔軟にできているが、人材不足もあり有給休暇の取得には厳しい状況と思われるので、ワークライフバランスの取組に期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

県として人事評価制度を取り入れている。正職員は半年ごとの目標を設定し、自己評価を実施して施設長と面接を行い評価を受ける体制になっており、モチベーションを高めている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

年間研修計画を年度当初に示し全職員が受講できる体制を整備している。外部研修は職種別や階層別に応じて参加し、嘱託職員は主に児童相談所の外部講師から年2回に分け、子どもが必要とする内容や対応について研修を受けスキルアップに繋げている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

年間研修計画に基づき、新人職員や階層別に年に1回の割合で参加している。今年度はコロナ禍のため出張研修が出来ない状況にある。スーパービジョン（対人援助技術）の勉強会は会議で園長が中心になり支援の在り方について取り組んでいる。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	

【コメント】

施設側では大学や育成機関に資料を送付し、積極的に実習生の受け入れ態勢を整えてアピールしている。毎年実習生からの問い合わせは数件あるが、平成27年以降は受け入れ実績がないので、施設の社会的意義や仕事としての魅力が実習生に伝わるようさらなる工夫や取組に期待したい。

3 運営の透明性の確保

(1)	運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

広報誌の丘の児・版画カレンダーを子どもたちが作成し地域の方々へ配布している。また県のホームページに施設概要を公開している。施設の特殊性から積極的に施設の様子や子どもたちの情報を公開することはないが、地域住民への情報公開は大事にしている。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。 <input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。 <input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	b
【コメント】 年に2回県の監査（県議会議員と県の監査員による）が実施されており、指導があった事項についてはその都度改善を図っている。しかし県の監査は第三者評価基準では内部監査に当たるため認められておらず、外部の専門家による監査が行われることに期待したい。		

4 地域との交流、地域貢献

	(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 <input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	b
【コメント】 子どもたちと職員が地域の行事や奉仕活動に参加している。また生活訓練として月に1回程度職員と共に日用品を買いに出かけているが地域行事以外に日常的な交流機会は少ない。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。 <input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	c
【コメント】 外部ボランティアの受入れを行っていないが、入所している子どもたちの状況やプライバシーに配慮し、授業での外部講師の受入れは行っている。地域の活動に職員や子どもたちが参加することはあるが、行事の時以外の受入れや交流は少ない。		

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

必要な社会資源の連絡先等はリスト化したり、通院先など子どもの必要に応じて個別にリストを作成している。前籍校・福祉事務所・児童相談所等とは定期的に自立支援会議を開催し情報交換や連携を図っている。また地域の方との情報交換を通じて社会資源を確認している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	

【コメント】

年度当初に民生児童委員や区長などの地域の方と施設の地域情報担当職員とが情報交換を行い、子どもたちが参加できる年間行事や地域の福祉ニーズなどの情報を相互に確認するようにしている。地域の災害避難所にもなっている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

地域の行事の中で河川清掃や道路清掃等に子どもたちと職員が参加し協力している。また町の運動会への参加やお祭りの神輿担ぎ手なども担っている。施設が地域の災害避難所指定になっているということもあり、災害時の受入れ体制や備蓄品を整えている。

Ⅲ 適切な支援の実施

1 子ども本位の支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	<p>28 子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>施設長が毎日の朝会において、必要に応じて子どもの尊重や基本的人権への配慮について講話で注意喚起や職員の理解を図っている。個別の配慮や尊重に関しては、自立支援会議を通じて把握し評価している。倫理綱領は運営マニュアルの中にあるとしているが不明瞭なため、施設としての「倫理綱領」を策定することに期待したい。</p>		
②	<p>29 子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>子どものプライバシー保護については、運営マニュアルに基づき年度当初やその都度に研修会や会議時に職員への周知を図っている。職員が子どもの居室への立ち入りや手紙等の開封は、入所時に子どもと保護者等に説明と同意をもらっている。</p>		
(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	<p>30 子どもや保護者等に対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>児童相談所が前もって説明を行っているが、施設側の担当職員が面接の際に小学生には子ども業務概要で中学生以上は大人用の資料で説明し、また見学にも応じて情報提供を行っている。</p>		

②	<p>31 支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う支援について子どもが可能な限り主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。</p> <p><input type="checkbox"/>支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。</p> <p><input type="checkbox"/>意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。</p>	b
---	---	---

【コメント】

支援の開始や過程においては、自立支援計画を子どもと保護者に分かりやすく丁寧な説明を行い理解と同意を得ている。「相談受付箱」を設置しいつでも意見や苦情等を出しやすくしており、苦情等はないが子どもの意思を尊重した対応で記録に残し計画に反映するようにしている。

③	<p>32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。</p> <p><input type="checkbox"/>他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。</p>	b
---	---	---

【コメント】

措置変更や地域・家庭への移行等は児童相談所が行っている。退所後も子どもや保護者等との面会を通して相談内容に応じた支援を1年間行っている。支援を行った子どもの記録を5年間保存している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	<p>33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。</p>	b
---	--	---

【コメント】

担当職員が子どもとの相談や会話を通して満足の聞き取りを定期的に行っており、出された内容を会議に図って、意向等に沿えるかどうかの結果を子どもに納得できるよう口頭で丁寧に説明している。子ども主体の行事に関する委員会に職員も同席し、子どもの思いなどを把握している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

子どもに意見や要望・苦情等をいつでも投函できるように周知し、相談受付箱を設置している。受付箱の管理は指導担当の副園長となっており、食べ物の要望などをメニューに反映させ、難しい場合は丁寧な説明で理解してもらっている。日頃から子どもに対しては、名前をさんづけで呼ぶなど乱暴な言葉遣いにならないよう気をつけている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

子どもの相談や意見の聞き取りは話しやすい担当職員が行い、交替制勤務の全職員がかかわり、共通の認識のもと支援をすることで子どもからは信頼されている。ほとんどの子どもは思いなどの訴えができていますが、困難な子どもへは子どもに合わせて個別に対応をしている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもの意見や要望は記録様式があり手順に沿って報告し、検討の場を設けて迅速に対応している。発達障がいの子どものいることから、項目を定め思いを汲み取れるよう毎月アンケート調査を行い、困りごとやいじめの有無などを確認しながら分校と連携を図っている。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	<p>37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p> <p><input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。</p>	b
【コメント】		
リスクマネジメントに関する責任者を明確にし、事故発生時の対応など各種マニュアルを整備している。毎月の運営委員会の中で日頃の状況報告やヒヤリハットの収集で危険要素を確認し安心・安全な生活ができるように努めている。		
②	<p>38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。</p>	b
【コメント】		
感染症発生予防マニュアルを作成し、寮内にマニュアルとノロウイルス対応セットを備え周知を図っている。外部からの感染に注意し、うがい・手洗い・マスク使用の徹底を行い健康対策や安全確保に取り組んでいる。		
③	<p>39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。</p>	b
【コメント】		
施設と分校は災害が発生した場合の対応について計画し、火災や地震などの様々な想定で安全確保を最優先に、毎月の訓練に合わせ年2回の消防署員立ち合いで実施している。子どもが訓練を重ね災害行動ができるように日頃から防災意識の高揚に努めている。		

2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	b
【コメント】 運営マニュアルに基づき、支援の標準的な実施方法を職員へ周知し、全ての子どもに対して個別に具体的な支援を実施している。運営マニュアルについて定期的なモニタリング等は実施していないが、必要に応じて会議を開催し評価検討を行っている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。 <input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。 <input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。 <input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。 <input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	b
【コメント】 定期的な自立支援会議や毎週の運営委員会において実施方法の検証・見直しを行っている。会議の場で職員の気づきや意見など、また子どもの口頭意見や投書など検討して反映する取組を行っている。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。 <input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。 <input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。 <input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。 <input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。 <input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。 <input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。	b
【コメント】 自立支援会議に向けてアセスメントに基づいた支援計画について、園長・副園長・各担当責任者が事前検討会を実施している。自立支援会議は年4回以上実施し、自立支援計画の評価・見直しをしている。必要に応じて1ヶ月ごとに細やかに修正することもある。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援会議に向けて週に1回の寮担当者会議や・分校教頭・園長・副園長などが参加し運営委員会を開き、次に自立支援会議を3ヶ月ごとに実施し、見直しを行う体制になっている。会議内容は各職員へ文書で回覧し周知を図り支援の向上につなげている。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	

【コメント】

支援の記録はパソコンでの統一した様式を使用して職員室で入力し、全職員が確認できるようにしている。朝会や夕方の引継時には子どもの様子などの情報を申し送り、また文書の閲覧を通して職員間の共有を図っている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】

庶務担当の副園長が責任者となり、文書管理を行っている。職員室にてパソコンを利用可能な状況で、ID・パスワードを付与して個人情報保護に努め、USBメモリ等の使用は不可としている。職員に対して定期的に個人情報保護に関する内部研修を実施したり、朝会でも周知を行っている。原則として子どもが映る写真等は非公開としている。

内容評価基準（27項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの権利擁護は運営マニュアルに沿って、年度当初に施設長が職員に対して訓示を行い、職員研修や運営委員会においても周知を図り自立支援に繋げている。職員の権利侵害がないか気づきなどを互いに注意し、早期発見や擁護に努めている。</p>	
<p>② A2 子どもの行動制限等は、その最善の利益になる場合にのみ適切に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設として、子どもの行動制限等についての規程やルール、マニュアル等を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの行動制限等は、規程やルール、マニュアル等に即して行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>規程やルール、マニュアル等を定期的に検証し、必要な場合には見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの行動制限等について、職員間で検証・検討する場を設ける等により理解の共通化やより良い対応に向けた取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの行動制限等を行った場合、必要に応じて児童相談所等に報告している。</p>	<p>a</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの行動制限は入所時に子どもと保護者等に伝えており、制限がある場合は児童相談所とも協議のうえ運営マニュアルに基づいて行っている。子どもの最善の利益になるように施設長の慎重な判断のもと実施することとしている。</p>	
<p>③ A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に全体場で権利についての理解を深めるように子どもたちに説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>日常生活の中で起こる出来事を通じて、子どもの自身や他者の権利について正しい理解につながるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利ノートやそれに代わる資料を使用して施設生活の中で守られる権利についてわかりやすく随時説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの状態に応じて、権利と責任の関係について理解できるように説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>年齢に配慮した説明を工夫している。（例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会）</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に職員研修として、子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p>	<p>b</p>
<p>【コメント】</p> <p>入所時に「子どもの権利ノート」を使用し説明と理解を図り、また寮内のホールに掲示しいつでも見られるようにしている。職員は子どもの権利に関することについて会議の場を利用して勉強会を行っている。</p>	

(2) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	

【コメント】

子どもに対する不適切なかかわりを防止するために、寮担当者会議や運営委員会において学びと確認を重ねながら、職員同士で注意喚起を行っている。日常生活の中で子どもからの訴えや疑わしい場合は、上司への報告と共に聞き取り調査をするための体制を整えている。

(3) 子どもの主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A5 子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちが施設の行事・余暇活動の企画・運営等にかかわることができる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが生活上の問題や課題について主体的に考え、その上で取組、実行、管理するといった内容を含んだ活動をしている。	
	<input type="checkbox"/> 生活全般について、日常的に話し合う機会を確保し、生活改善に向けての取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた生活習慣や生活技術の習得に向けた支援を行っている。	

【コメント】

子どもが当番制で寮内外の掃除や野菜の植え付けから収穫までの共同作業を職員と共に行い、また朝夕の挨拶や来訪者への対応などを含めて礼儀作法を学んでいる。一連の日常生活で生活習慣や生活技術を習得し、自主性・協調性を育てている。

(4) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どもが安定した生活を送れるよう退所に向けた支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの実情に応じた目標設定を行い、自立支援計画に基づいて退所に向けた支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所や関係行政機関と協議の上、適切な退所時期や退所後の生活を検討している。	
	<input type="checkbox"/> アフターケアに備えて、児童相談所と施設の連携(役割分担と協働)、地域の関係機関(要保護児童対策地域協議会、児童家庭センター等)、人的資源(民生児童委員等)を活用した支援体制の構築を図っている。	

【コメント】

退所に向けて児童相談所と協議し自立支援会議で子どもや保護者等の意向を踏まえ、進路や住環境・子どもの課題等の目標設定をし、退所後の社会生活に馴染むことができるよう支援している。

②	<p>A7 子どもが安定した生活を送れるよう退所後も継続的な支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>退所した子どもの自立のための通所支援を積極的に実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的かつ必要に応じて訪問による支援を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>退所した子どもの来所を温かく受け入れ、自立を励まし、支援する取組を行っている。必要な場合は短期間の宿泊による支援を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>退所した子どもの自立のための通所による支援を実施するうえでの課題や条件整備について前向きに検討している。</p> <p><input type="checkbox"/>アフターケアは施設の業務であり、退所後何年たっても施設に相談できることを伝えている。</p> <p><input type="checkbox"/>退所者の状況を把握し、退所後の記録を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>必要に応じて、児童相談所と協議の上、市町村の担当課と情報共有し、地域の関係機関、団体等と積極的な連携を図っている。</p>	b
---	---	---

【コメント】

子どもの退所後は児童相談所と連携して、子どもや保護者等に3ヶ月に1回の割合で面接し悩みなどに対応する支援を行い、1年を目途に終了している。その後は施設側からは積極的な連絡はしないが、子どもや保護者等から相談があれば協力支援を行っている。

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本	第三者 評価結果	
①	<p>A8 子どもと職員の信頼関係を構築し、家庭的・福祉的アプローチを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は、子どもたちが日常生活の中で「大切にされる体験」を積み重ね、信頼関係や自己肯定感を取り戻すことができるように支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに安心・安全な生活を提供して不安の解消を図るとともに、子どもの良さ、強み、潜在的な可能性を見つけるなど、子どもに対する受容的・支持的にかかわりを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちがお互いにその人格を尊重し、お互いの長所を認め合い、助け合うことのできる良質な集団づくりを行うなど、集団生活の安定性を確保するための取組がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/>一人ひとりの子どもと良好な関係が持てるよう、職員と子どもが個別的にふれあう時間を確保したり、施設全体の行事とは別に小集団での行事等を子どもと計画を立て実施するなどの工夫がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの集団生活の状況に応じて、臨機応変に生活の内容を変えて対応している。</p>	b

【コメント】

子どもと担当職員の1対1の関係を大切にし、会話の機会を増やしていつでも悩みや相談のできる信頼関係づくりをしている。畑の野菜作りでは、職員が率先する作業で汗を流すなど子どもの手本となるようにアプローチして信頼を繋げている。

②	<p>A9 子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。</p> <p><input type="checkbox"/>施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、約束ごとを理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。また、子どもたちにわかりやすく具体的に文書等で示している。</p> <p><input type="checkbox"/>普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。</p> <p><input type="checkbox"/>地域社会への参加等を通じて、社会的ルールを習得する機会を設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが個々のニーズに応じて主体的に余暇活動などを行い、それを通して、協調性や社会性を養うように支援している。</p>	b
---	---	---

【コメント】

施設のルールについては入所時に子どもへ説明している。ルールブックは寮のホール内に設置していつでも見られるようにしており、互いに協力し合い共同の寮生活を送っている。職員は日常の立ち居振る舞いなど、子どもの手本となるよう心がけている。

③	A10 自らの加害行為に向き合うための支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 加害行為を行った子どもが自分の行為を振り返り、きちんと向き合うための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 振り返る際、行動上の問題が発生した要因等について自己理解を深め、その軌道修正をはかることができるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> この取組を通して成長できたという成長感や自己肯定感などを育成できるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 入所後の行動上の問題への対応について、職員間でケース会議を行い、検証を行っている。	

【コメント】

入所後に問題行動が見られた場合は、個別に子どもから聞き取り問題行動に至った原因や反省の作文を書いてもらい自己認識・責任感を育てる取組をしている。問題発生があった場合は寮担当者会議やケース会議を実施し、統一した対応に努めている。

(2) 食生活

①	A11 子どもの発達段階に応じた食習慣の習得など食育を適切に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 朝食、昼食、夕食それぞれの食事時間が子どもの基本的な生活習慣の確立につながるよう設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 電子レンジや保温、保冷庫等を用意し、食事時間以外に美味しく食べられる配慮をしている。	
	<input type="checkbox"/> 食材の買い出しや食事の準備、配膳、基礎的な調理技術を習得できるよう必要な設備、機会が用意されている。	
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 誕生日や卒業など、特別な日には献立に工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちが育てた収穫物を簡単な方法で調理するなど、食への関心を育てている。	
	<input type="checkbox"/> 食に関する知識(栄養面、価格面など)を得られる機会が設けられている。	
	<input type="checkbox"/> 外食や弁当、レトルト等の利用であっても、偏食になりにくい組み合わせのヒントを教えるなど、実生活に即した配慮を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 疾病などの場合にも対応できる食の知識を教えている。	
	<input type="checkbox"/> 自立に向け、健全な食生活の実現や健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食を選択する判断力などを楽しく身につけるための支援をしている。	

【コメント】

子どもたちで1週間ごとの役割担当を決め、テーブル拭き・盛り付け・配膳・後片付け・食器洗いまで行っている。献立には施設の畑で子どもたちが育てた旬の野菜を採り入れ美味しく食している。誕生日には子どもが希望したリクエストメニューが提供され楽しみとなっている。

②	A12 子どもの嗜好や栄養管理に配慮し、食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 和気あいあいとした会話のある食事に心がけるなど、団らんの場として明るく楽しい雰囲気の中で食事ができるように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は、常に清潔が保たれている。	
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個人差(年齢、障害)や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供し、疾病時には飲み物などに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫(季節の花が飾られていたり、ランチョンマットの使用など)、食事を美味しく食べられるように工夫している。	
	<input type="checkbox"/> 好き嫌いをなくす工夫や偏食への支援については、無理がないよう配慮し実施している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況を確認し、子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、変化に富んだ献立を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 生活支援担当職員と給食担当職員との定期的な連絡会議を開催し、食生活の向上などに努めている。	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 栄養士が配置されている場合、専門性を活かし、日々提供される食事内容や食事環境に十分に配慮するとともに、子どもに対する献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 食を通して、個々の子どもがその存在を大切にされていることを実感できるように工夫している。	

【コメント】

庶務担当の副園長・調理師・指導員2名で毎月給食会議を開催して、嗜好や栄養バランスを考慮し献立に活かしている。季節行事の芋煮会・餅つき大会・クリスマス会などで食文化に触れる機会があり喜びに繋がっている。

(3) 日常生活等の支援

①	A13 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用し、衣習慣を習得できるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 生活場面や活動場面に応じて着替えることのできる衣類を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣の習得を支援している。	
	<input type="checkbox"/> 破れやほつれなどの修繕が迅速に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 衣服は、ほつれ、ほころび、穴等、また汚れが無いものが着用されている。	
	<input type="checkbox"/> ボタン付けや簡単な修繕ができるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 用途や体に応じた靴を提供し、清潔な靴を大切に使う習慣を身につけられるよう支援している。	

【コメント】

運動靴などは好みがあるため、保護者が準備し被服費は年間予算の中で子どもの個性なども大切に、華美にならないよう女子は職員と共に出かけ、男子は事前にサイズや好みを聞き職員が購入している。衣服や洗濯物などの整理整頓は子ども自身で行っている。

②	<p>A14 居室等施設全体が、子どもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 建物の内外装、設備、家具・器具、庭の樹木、草花など、子どもを取り巻く環境から、そこにくらす子どもが大切にされているというメッセージを感じられるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが私物を収納できるよう、個々にロッカー、タンス等を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、軽度な修繕を迅速に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 居場所となるように家庭的な環境としてくつろげる空間などを確保するように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要に応じて入浴やシャワーが利用できるようになっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、子どもの状況に応じて配慮を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 疾病時などに静養できる個室や特別な部屋等を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 着替えなどプライバシーを守れる環境を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> TV、DVD、音楽プレイヤー、楽器や本など子どもが楽しめる環境を整えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが安心して十分に睡眠がとれるように配慮している。</p>	b
---	--	---

【コメント】

入所時に2名が1部屋である事を子どもと保護者に説明し、子どもの相性などを考慮して部屋割りを行っている。掃除は自分たちで朝・夕食前に2回行い居心地の良い環境に取り組んでいる。学習室も確保され、また余暇時間は音楽を聴くなどの様子が見られる。

③	<p>A15 スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> スポーツ活動(クラブ活動)は、身体能力を育てるだけでなく、忍耐力、責任感、協調性、ルール(規範)を身につけ、自己肯定感を醸成する機会として実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの興味、好みを可能な範囲で取り入れ、体制を整えて支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じた内容が取り入れられ、子どもが達成感を得られやすい目標設定で支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> ルールを尊重するとともに、子ども間の協力やチームワークなど、子どもの社会性の発達を支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自主性や自発性を持った活動を行い、最後までやり通せるように支援している。</p>	b
---	--	---

【コメント】

クラブ活動ではバドミントンや野球等があり、好きなスポーツは楽しみとなり、スキー教室では上達していく中で自信や意欲になっている。詩吟・茶道は外部講師の指導を受け、昇級・昇段試験で合格した時は子どもの達成感に繋がっている。

(4) 健康管理

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、服薬や薬歴のチェック等を行い、日頃から注意深く観察している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。また、あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの心身の異常の訴えに適切な対処を行っている。	
	<input type="checkbox"/> インフルエンザの予防接種など接種できるように配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 保健師や養護教諭(分校等)と連携をとっている。配置のない場合は配置に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的な健康チェックを実施するなど、子どもの健康状態・発達状態の把握や健康管理に努めている。	

【コメント】

朝会で施設職員と分校教員が子どもの様子や健康状態などを把握して情報の共有を図り、嘱託医は毎月子どもの診察を行い、治療方針や薬の処方などを間違いの無いよう注意を払っている。入所時に内科医による健康診断やインフルエンザなどの予防接種も実施している。

②	A17 身体の健康（清潔、病気等）や安全について自己管理ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 医療機関との連携による取組を通して、子ども自身が身体の健康や安全を自己管理できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員がきちんと把握している。	
	<input type="checkbox"/> うがいや手洗いの習慣を養うように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、健康管理ができるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 定例的に理美容をしている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 軽いケガや疾病などの処置ができるような体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 基本的な疾病やケガに関する知識や対処方法を学ぶ機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 施設内における危険箇所を把握し、職員、子どもに注意喚起が行われている。	

【コメント】

職員は子どもの様子の変化に気付けるよう心がけており、子どもには体調が悪い場合は我慢せず職員に訴えるようにと日頃から指導している。毎日の洗濯や毎月理・美容師の来園などで、清潔や健康の増進を図り生活習慣が身に付くよう支援している。

(5) 性に関する教育

①	A18 性に関する教育の機会を設けている。	c
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を理解する機会を設けている。	
	<input type="checkbox"/> 児童自立支援施設に相応しい性教育についての職員の学習会を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招いて、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	
	<input type="checkbox"/> 日頃から職員の間で児童自立支援施設に相応しい性教育のあり方等について意見交換している。	

【コメント】

性教育は分校の授業内において実施している。また性に関する悩みや戸惑いに関しては職員がその都度個別に指導助言している。性犯罪等の履歴のある子どもに関しては居室の子ども同士の組み合わせの配慮や、児童相談所のプログラムにおいて児童心理司による個別的な指導を行うこともある。

(6) 行動上の問題に対する対応

①	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないように徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の密室・死角等の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は観察を密にし、個別支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が適切な対応ができるような体制になっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員では暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所等の協力を得ながら対応している。	
	<input type="checkbox"/> 暴力防止プログラムの活用など、子どもに対して暴力防止に向けた支援を展開している。	
	<input type="checkbox"/> 施設内での重要なルールとして「暴力防止」を掲げ、日頃から他者の権利を守ることの大切さを子どもと話し合う機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成や部屋割りなどには、子ども同士の関係性に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめについての対応マニュアルを作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子ども遊びにも職員が積極的に関与するなどして子ども同士の関係性の把握に努め、いじめなどの不適切な関係に対しては適時介入している。	

【コメント】

マニュアルに沿って、暴力やいじめが発生しないよう努めている。また暴力防止プログラムは利用していないが、対象となる事案があれば職員立会いのもと子ども同士で話し合い、主体性を持たせて解決できるように助言し和解に繋げている。

②	A20 子どもの行動上の問題に適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、子どもの特性等あらかじめ職員間で情報を共有化し、連携して対応できるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 緊急事態に対する対応マニュアル等を作成し、組織的な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設が、子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについては、問題となる行動を観察・記録するとともに子ども本人からの訴えを傾聴し、発生の要因やメカニズムなどについて子どもと共に分析して、子どもに説明をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な支援技術を習得できるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 他の子どもの安全、安心な生活を破壊し、施設の生活を成り立たせなくする暴力行為等に対し、施設全体で対応する仕組みを設け、周囲の子どもの安全を図る配慮をしている。	
	<input type="checkbox"/> 集積した子どもの行動上の問題に対して、多角的に検証して原因を分析したうえで適切に対応し、また、記録にとどめ、以後の対応に役立てている。	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所、警察機関などの関係機関と日常的に連絡を取るなど、緊急事態への対応が円滑に進むよう対策を図る。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関を含めてケースカンファレンスを実施し、その対応策などについて検証している。	
	<input type="checkbox"/> 影響を受けた子どもへの配慮ある支援を行っている。	

【コメント】

運営委員会や研修を通じて子どもの行動上の問題の情報共有を図っている。また問題によっては児童相談所や警察、裁判所との合議を行うこともある。平均的な入所期間が短いため家庭的な雰囲気を作り出す配慮をし、子どもたちが安全に安心して生活できる居場所となるように努めている。

(7) 心理的ケア

①	A21 必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアを必要とする子どもには、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理的な支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応じて、有効なプログラムを柔軟に組み合わせたり修正したりして、心理的な支援プログラムを作成している。	
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援プログラムにおいて個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的な支援が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、心理的な支援が行える体制ができています。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども個々に心理的ケアの担当者を決め、定期的に心理的な支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的かつ必要に応じて心理検査などを行い、ケースカンファレンスを通じて、ケア効果について評価し、見直しを行いながら、継続的に心理的な支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 良質な生活環境づくりを行い、施設での生活そのものが心理的ケアとなるような生活環境の提供に努めている。	

【コメント】

人材不足により心理療法担当職員の配置に至っていないため、児童相談所へ依頼し児童心理司が定期訪問の面接で対応している。子どもへの心理的ケアや心理的支援プログラムが十分に行えている状況とは言えず、今後改善に繋がるよう期待したい。

(8) 学校教育、学習支援等

①	A22 施設と学校の緊密な連携のもと子どもに学校教育を保障している。	b
	(学校教育が実施されている場合) <input type="checkbox"/> 日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保されている。 <input type="checkbox"/> 原籍校と連携を図り、子どもが不利益をこうむらないように、学習進路等の支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設と学校が個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。 <input type="checkbox"/> 学校で生じた行動上の問題に対しては、学校と協力して対応している。 <input type="checkbox"/> 学校との協議に基づき、子どもの個々の学習計画を立て、それに応じて支援し、計画の見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 施設は子どもにとって学校で認められ、活躍できる居場所となるように支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 個別ケース会議には、原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。 <input type="checkbox"/> 家庭復帰を目指す場合は、退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	
	(学校教育が実施されていない場合) <input type="checkbox"/> 原籍校と連携を図り、子どもが不利益を被らないように、学習・進路等の支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 学校教育を実施する際の課題等を検討するなど実施に向けての取組を真摯に進めている。 <input type="checkbox"/> 学校教育が実施されていないが、教育内容等は子どもの最善の利益のために十分な配慮を行っている。 <input type="checkbox"/> 家庭復帰を目指す場合は退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	

【コメント】

子どもの情報は朝会と夕方の引継において分校・施設間で緊密に連携を図っている。また自立支援会議等で前籍校とも情報を共有し、生活・学習・進路支援が途切れないよう実施している。

②	A23 学習環境を整備し、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出が無いよう支援している。 <input type="checkbox"/> 辞書・参考書等学習に必要な書籍を用意している。 <input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、中学生、高校生、受験生のための環境づくりなどの配慮をしている。 <input type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられるなど、学習習慣が身につくよう支援している。 <input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 学習ボランティアや学習塾など社会資源を活用して学習支援をしている。 <input type="checkbox"/> 就業に結びつく資格取得や検定を受ける機会を設けている。	

【コメント】

学習したい子どもには個別のスペースを提供している。漢字検定や英語検定などにも積極的に挑戦させ、学びの達成感を得られる配慮をしている。現在高校生が在籍していないため、就業に結びつく支援は実施していない。学習ボランティア等は施設の性質上受け入れを行っていない。

③	A24 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して自立に向けた支援に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業主等と密接に連携するなど、職場実習の効果を高めている。	
	<input type="checkbox"/> 各種の資格取得を積極的に奨励している。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習に対する施設としての取組について、規定を設けるなどして、職員が共通認識をもって、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが、作物などの育成過程を通して、協働して作業課題を達成する喜びを体験し、勤労意欲の向上、心身の鍛錬を図れるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 仲間との共同作業などを通して、人間的ふれあいや生命の尊厳及び相互理解を深め、社会性や協調性を培うように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 働く体験を積み重ねることで、根気よく最後まで取り組む姿勢など社会人として自立するために必要な態度や行動を育てている。	
	<input type="checkbox"/> 自然の環境の中での作業体験を通して、情操の育成が図られるように支援している。	
	<input type="checkbox"/> 作業カリキュラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> ソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に実施している。	

【コメント】

敷地内の畑での農作業や、授業中での文化活動を実施し、人間性を育む取組を行っている。現在高校生が在籍していないため職場実習などは行っていないが、在籍する場合は実習などの体制を構築している。分校の授業においてSST（ソーシャルスキルトレーニング）を定期的実施し、社会性などを育む取組も行っている。

④	A25 進路を自己決定できるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、必要な資料を収集、多様な選択肢と判断材料を示して子どもと十分に話し合っている。	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるような相談、支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応している。	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、施設入所を継続し、子どものニーズに応じた社会経験を積めるように配慮し、進路支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業予定の子どもが入所している場合、進路支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 進路支援カリキュラムが策定されている。	

【コメント】

本人の進路希望を保護者と共に話し合う機会を設けたり、オープンキャンパスに見学に行ったりもしている。退所後は積極的な連絡はしていないが、本人や保護者側からの相談依頼があればアフターフォローとして助言や指導等を行っている。

(9) 親子関係の再構築支援等

①	A26 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、アセスメントに基づく家族支援の計画が記載されている。	
	<input type="checkbox"/> 家族支援の計画は、保護者や児童相談所などの関係機関等と協議して策定され、必要に応じて見直している。	
	<input type="checkbox"/> 親子の関係改善を目的に、日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を家族に随時知らせたり、施設行事などへの参加を積極的に促し、その際、受容的なかわりを心掛けて、信頼関係を築くようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅は、子どもと保護者等との協議によって目標を立て、必要に応じて児童相談所とも連携して実施している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の安定した関係に配慮し、保護者等の養育力の向上に資するよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 家族の抱える課題に対して、児童相談所と連携しながら、または独自に、保護者等と定期的に面接やカウンセリングあるいは家族支援プログラムを行うなど、具体的な支援を行っている。	

【コメント】

子どもたちは両親のもとに毎月思いや近況を葉書きに書いて投函している。家族の面会や、週末の外出、生活訓練として外泊をすることもある。また分校の授業参観に併せて親子で芋煮会を実施するなど、全ての子どもが親子関係を継続・修復できるよう細やかな配慮を行っている。

(10) 通所による支援

①	A27 地域の子どもの通所による支援を行っている。	評価外
	<input type="checkbox"/> 通所支援に必要な予算・人員等が確保されている(又は、予算・人員等の特別な確保はないが、既存枠内で対応できている)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援専用の施設設備が整備されている(又は、既存施設の有効活用により対応している)。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援が、施設の「事業計画」に規定され、組織的な取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 通所支援のみならず、地域の子どもの健全育成のための、子育て講座や子育て支援プログラムが計画・実施され、児童自立支援施設の機能が有効に活用されている。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	

【コメント】

実施していないため評価外である。